栖雲寺たより



行、



は

お

げ

で

雨に

あ

たり

しょ

濡

なっているではあ

ŋ

ŧ

せのお傘

バい

は転

車

を

返

てま

カにた数に

檀

 λ

転を

車

で 廻

ろうと

そ

つお雨

りま かり

で

あ ピ

かの

て宅

いに

ま戻

かた。

後

す

止

W

で

再

 \mathcal{U}

っ借

力

が

廻 す

0

第18号

発行日

まが大

7

置 傘

時かを

せ 間

> 7 ŧ

ら

はいれ

た傘を

7

日歩 徒

出雨

うことが

あ

É

Ĭ

眺

が

5

途

あ中

りば

で 5

さ取お

か

おばさか

0

て棚

経

廻

がな

てく り

L

平成27年6月1日



ババ自軒来んのあの お現前 す 時 あ る 檀 ま 家さん 求 たれ 布 施 炎 出 \mathcal{O} 天 事 7 自昨 入 年 7 ŋ 転 車 1 で 0 廻 つ静 尚 おい県 して る清 時 水 お大 ちお 施布西 ょ むす施和 お

かう 傘 房 財 合う 七 ぼ う 施 7 1 んを差したら、 な形 ホ お 金 Þ のカ で出た 身は、対 わ 濡れて 風く を 7 ţ 実が . ら 1 所 $\frac{1}{\sqrt{1}}$ 雨 ても 0 か切 な 供 \mathcal{O} すぐ実行 すると は、 れ を 廻る n \mathcal{O} ま できる七 牲 中 ず \mathcal{O} 施 施 ま雨 でつ す。の て頭 布ん 施かった自 自 の房 ぎま 棚 分 だの も理蔵 経施 けー の解様 l よがつ

青柳 元

Ш

臨済宗建長寺派 天目山 栖雲寺 住職 青柳真元 山梨県甲州市大和町木賊122 TEL $\mp 409 - 1201$ 0553-48-2797 http://www.tenmokusan.or.jp または[栖雲寺]で検索 ブログはほぼ毎日更新

行 わ五 二十七日に 儀 式 が

の会 () 人ま 1 5 戸 0 0 その 神

Ш 「され、 蕎麦切 庫

灯 庵 の裏

持えして れておいうの 使 材に来て 尊様と開 なで坐 つて蕎 元 の栖ま $\widehat{\mathbb{U}}$ て はつ= 禅をしまれ Щ 様 はことにあまり番麦切り発祥のイベントとなり こその が二社、 ただき、 そし 院 これを契 蕎 用 して本堂 \mathcal{O} 麦切 食器 最 聞 り ŋ り \mathcal{O} 知地ま は で を

7 多くの ₹ Ŋ . ノませ ん。

知 0 では 録 が残 はが 0

あ の正け ことの式に執 ŋ 催 う 行 たの

臨済宗の 尚

師

は 山家して比叡山のれるが、十一歳で 8 0 0 ※で天台密教会の10年。神会

て六

七 て二十八歳で宋 天台宗の堕 渡る

と、そこで禅に出会う。禅をきわめようと四 と、そこで禅に出会う。禅をきわめようと四 と、そこで禅に出会う。禅をきわめようと四 と、そこで禅に出会う。禅をきわめようと四 [憶力を高める厳しい修行の結果、頭が十二㎝伸びたと言われている。茶] を日本に伝えたことでも有名である。頭部がとても特徴的だが、 ※うちのお寺は臨済宗参照 布の教えは、 粋な禅寺 で寿福さ で寺入京激

で、市がお走 つって 定ってみました。 電車に乗るため寺か 営バスを待って いも るかぼ 入ってから体重 からです。先日は気は毎晩、子供が寝な 上りも挑戦 ているより効率的ないるようがら甲斐大和即 4 年 が 6キロ てみよう 栖雲 痩 寺に 駅 てし ま *(*) の倉 ま ただ は

※坐禅会、法話、写経会、境内案内 可能な限りお受けします。電話でお気 軽にお問い合わせください。

